

私たちの  
名張

# どんな街をつくっていく？

---すみよい名張市をめざす懇談会 12月の案内---

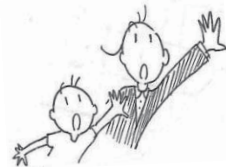
とき **12月21(水) 午後1時半～4時**

ところ **武道交流館 いきいき 会議室2**



てーま ①「統廃合・小中一貫」、名張市教育委員会の論拠について考える

●「名張市立小中学校規模・配置の適正化基本方針」、「子ども教育ビジョン」 ●12月議会では ● 小学校と地域づくり



②下水道公共移管・管理問題(第4回公判の報告など)

(ご希望があれば「すみ懇」でのまとめをもとに、山田さんと阿知羅代表が地域の話し合いに出向きます。)

## 11月例会の報告

どなたでもお気軽にお出でください。お待ちしております。(会場費等のため100円ご用意ください。)

規模・配置の「適正」とする数字の根拠は何か、

「後期計画」は子どもにとっての最善策になるのでしょうか？

以下、26日の例会で出されたご意見をもとにまとめてみました。(文責：松本)

○「市の教育委員会のメンバーの方々と懇談したい」と申し入れたら、すぐに返事はくれず後日断ってきた。(「統廃合を考える父母の会」)

○教育長は「先の見えない社会の中で誤りのない教育を」と言うが、後期計画の実施が「誤りのない教育」になるという確証については抽象的で納得できない。(桔梗南小学校で)

○適正規模だという数字の根拠、また、少人数学級についても、教育学の専門の立場からの論拠付けを共有することが大事だと思う。

○市は、百合丘小学校の「ホメホメ隊」を推奨しているが、現場の先生にとってどうなのか。

○人口減、少子化が進む中、「活力ある学校づくり」「グローバル人材づくり」を目指して「統合、小中一貫を進める」と国も名張市も言うが、肝心となる教員の増員や財源は担保されていない。

○この問題は、地域の自治、そして学校の自治、教育権の問題だ。

市に負担のないところに住民の負担は生じない！(受益者負担)

つつじの「下水道」問題訴訟第3回公判(11月)、第4回公判は12月19日